

# 『はじめての文学 村上春樹』

～ 青少年向けの短編集 ～

村上 春樹

今月のオススメ本は、青少年向けに現代の人気作家の作品を集めた、『はじめての文学』シリーズ全十二巻のなかから、第一巻、村上春樹の作品集を選んでみました。

この短編集の巻末には、村上自身による一つ一つの作品の解説が付けています。しかも、青少年向けの作品集ということで、作品の細部に手が加えられています。

このことは、村上春樹のファンとしては大きな驚きであり、とても興味深いことでもあります。作品が書かれた背景や作品に対する作家の思いを知ることはなかなかないことですし、元の作品との違いを見つけるのも楽しいものです。そうした意味から、村上春樹の短編集の中でも重要な一冊ではないかと思えます。

作品の多くは、1980年頃から90年代半ばにかけて書かれたものですが、時代を意識しないで読める作品ばかりです。一番最初の短編、「シドニーのグリーン・ストリート」に登場する「羊男」は、村上作品の中に時々登場するキャラクターです。村上春樹を読むのが初めてで、一番最初の短編が面白いと感じたならば、早くも村上ワールドにはまってしまったといえるかもしれません。

二番目の「カンガルー日和」は、若い夫婦が動物園に行くという、何気ないストーリーですが、まさに、村上文学を凝縮したような作品です。

村上自身がセレクトしただけあって、どの作品も読み応えがあります。青少年のみなさんはもちろんのこと、すでに別の本で読んだ方にも、特に、村上春樹がまったく初めての方にオススメしたい一冊です。

